

望ましい勝山市の小中学校の在り方を考える
市教委と市Ｐ連との対話集会質疑応答

と き 平成１７年１１月２２日（火）午後７時～
ところ 勝山市教育会館１階大ホール

Ｑ 現在三人の子供が小学校に通学。環境もよく喜んでいるが、来年一番上の子が中学に進学。中学校の給食は小学校に比べ、おいしくない、満足できないと言う話を聞いている。なぜ、給食調理室が出来ないのか？また、小学校では栄養士がメニューを決めているが、中学校ではどうなっているのか？

Ａ 小学校の給食は、自校方式で大変評判が良い。仮に統廃合があった場合でも、今の自校方式が良いと思っている。中学校においては、民間に委託しているが、平成十四年度に温かいご飯と汁物が食べられるように改善をしたところなので、今のところは、この内容でやらせて頂きたいと考えている。

中学校についても、学校栄養士が、給食委託業者に献立、栄養指導を行っている。私（教育長）も試食したが、十分おいしいと認識している。保護者の皆様にも試食していただき、ご意見をいただきたい。

Ｑ 少子化について議題にもなっていたが大変な状況に驚いている。今のところ小学校のみだが将来中学校も統廃合なのか？小中での統廃合はあるのか？先生の人数も少なく指導員を入れて苦労しているが、人数が減れば子供の選択の幅が減るのではないか？

Ａ 一学年二クラス以下の中学校では、教職員の定数の関係で、全ての教科に免許所有の正規の教員をそろえることが困難になる。高校では選択科目の関係で、一学年六クラス以下になると、全ての教科に免許所有の正規の職員をそろえることは困難になる。中学校も高校も、教科担任制であるために、少子化の影響を大きく受けることになる。また、部活動なども、生徒数が減少すれば、指導者も部員数も減少し、部の数を減少しなければならず、選択肢が少なくなる。従って、クラス数が一定数より減じた場合には、統廃合を考慮ざるを得ない。

アンケートについて

Q 複式学級ではなぜ駄目なのか？

統廃合した場合、通学に手段は？

Q 地区別対話集会に次いで二度目で、個人的な質問。児童数の統計や統廃合のアンケートの案に驚いている。具体的にあるのか？どうして統廃合が必要か？特色を生かした学校づくりのメリット・デメリットは誰がどのように資料を作成したのか？マイナスの要素にならないか？

A 複式学校のメリット、デメリットは、一概には言えない。統廃合した場合は、通学手段について考えていく必要がある。

複式学級のある学校があるために、地域から人が出て行く状況が起こっている。親御さんの方から複式学級は困るということで出て行っている。美山町では、過疎化防止のために学校を存続させる方針で二つの学校を改修したが、児童数の減少が止まらずわずかその三年後には、統廃合することに方針転換している。現実には、保護者が福井の方へ出たからである。

先日、特認校制度の学校を視察に行ってきたが、小松市の西尾小学校では、地域の人が残すために、里親になり学校を残そうとした。子どもが地域にいとなくなると、将来地域の存続そのものが危うくなる。

学校の特色としてメリット・デメリットを挙げたが、これは一般論として理解いただきたい。

Q アンケートについて何を根拠にこの学校とこの学校を統合するのか？

また、統合した場合新たに学校を作るのか？大きい学校に吸収されるのか？

Q 現在町民運動会に小学校も参加。統廃合した場合地域の行事は？

A アンケートは、ある程度のパターンを示さないと議論がふかまらないため、案を出したものである。このような時に、お住まいの地域はどうなるか、どういう問題が起きるか考えて頂きたいというものである。案を示せば、いろいろな話が出てくると思う。そして統廃合を前提とするものでなく、保護者の意向を知るためのものである。

小学生の地域行事については、学校がなくても公民館や児童センター単位で地域の行事に参加することも可能である（猪野瀬地区では、三年続けて、勝ち山ワッショイに参加している。）

Q アンケートのC案（中学校校区の統廃合）は中学校区での統合。小中一貫教育として考えるといいのではないか？

Q 統廃合は何年後を想定しているのか？五年後なのか？今すぐなのか？

A 学校の統廃合については広報活動を通しながら、議論していく必要がある。統廃合は、地域の合意がなくては、実施できない。具体的な時期については考えていない。

児童が、学校で一人になるまでほっておく訳にはいかない。ある一定数を割り込んだ時、学校の存続が難しくなる。小・中一貫教育については、今の段階から何が小・中で取り組めるか考える必要がある。中・高一貫教育も視野に入れ、教員の交流も必要である。子どもよりよい教育について学校やPTAが考える時期に来ている。

少子化の中で、「学校を考える」ことは「地域を考える」ことにつながる。人づくりが町づくりにつながる。まず、足下の地域づくりに尽力してほしい。

Q C案（中学校校区の統廃合）だと場所はどうなるのか？具体的に北中あたりに作るのか？

A 今の所、学校の位置などについて、具体的には検討されていない。

アンケートを実施する場合も、その趣旨を示し、資料が十分理解できるように文章を付け足したい。また、保護者会等を活用し、内容説明をして、実施していきたい。アンケートの内容も吟味したい。

Q アンケートについてはインパクトがあるが、あくまでも案であることを付け加えてほしい。中学校についても何かあるのか？

Q 複式でも地域がよければ望ましい学校だろう。中学校には教員数が少なく補助教員を増やしてほしい。越境通学を含めた議論を進めてほしい。

Q 質問等は他の学校の方々がして下さったので控えさせていただく。望ましい勝山市の小中学校の在り方を考えるという地域での対話集会は保護者の参加が少なかった。この場が我々のスタートとしてこれからも説明を続けていってほしい。

A 遅くまで、熱心に議論していただき、有り難い。私達は、今居る子ども達にとって何が望ましいか考えている。共に考えていただきたい。

また、中学校についても一学年一クラスになった時、教職員数も減り、活動内容も限られるため、統廃合を考えていく必要がある。中学校になると、不登校が急に増加する。この問題は、幼児期からの育ちを振り返ることも大切だ。幼児教育支援センター事業を展開しているが、幼児期からの教育が大切である。教育委員会は特認校制度についても調査したが、今後の学校選択制の一つになるだろう。小松市の特認校では、英語教育や地域との事業、学力向上への取り組みがあった。

これからは、特色を生かした学校づくりが必要で、学校と共に地域を育てることが、今後の課題である。皆さん一人一人が生き生きとした地域人として活躍していただきたい。